

## アレンジのポイントについて

このプログラムは、

「親学プログラム 3-① 目指せ！早寝・早起き・朝ご飯」

をアレンジしたものです。



### アレンジポイント (①～④) と配慮する点 (\*)

#### ① 参加者の姿を思い浮かべて

(例) ・【ふり返りと分かち合い】で、ワークシートに書く内容を「今後できそうなこと」から「今回の話し合いをふり返って、気づいたことや感じたこと」に修正

\* このプログラムをとおして、参加者がどんな姿を見せたり発言したりするといいいのかを明確にし、それに向かうためのプログラムを企画しましょう。今回のねらいは「保護者同士のつながり」を重視したため、上記の通りに修正しました。  
学習のねらいを吟味することは、とても大切なことです。

#### ② 限られた時間でも工夫して実施

(例) ・個人で付せんに書く時間の短縮 ( 8分 → 4分 )

・ (紹介された付せんの) まとまりごとに島をつくり、見出しをつける。(←省略)

\* 「親学プログラム」の実施には、時間の制約が課題となることがあります。親学プログラムの良さは、実際に体験すれば伝わりますので、限られた時間内に実施できるように工夫しましょう。今回のプログラムは、80分→40分と短縮して実施しました。

\* 時間短縮のために、参加者に慌ただしさを与えてしまっては効果がありません。①にもあるように、この時間に必要・大切な時間はどこか。取捨選択しましょう。

### ③ 参加者の負担感軽減

(例) ・グループで話し合ったことを全体の場で発表する。(全グループ → 数グループ)

\*アイスブレイクや中心のワークで盛り上がっていても、全体の前で発表するという事は、またハードルがあがります。グループで話し合いをする前に、「あとで発表していただきます。」とあらかじめ伝えておくことも工夫の1つです。また、必ずしも全グループが発表しなければならない訳ではありません。数グループに絞って発表してもらったり、休憩時間に各グループの成果物を見て回るという方法をとったりすることもできます。

(例) ・アイスブレイクの内容の検討

①〇×クイズ ②バースデーチェーン → 4マス自己紹介

\*参加される方の中には、「アイスブレイク」と聞いて身構える方もおられます。進行の際には、あらかじめ「今からアイスブレイクをします。」とは言わず、自然な流れで入りましょう。今回は、会場の様子をふまえ動くようなことはせず、近くの方と簡単に自分のことを話していただこうと考え、4マス自己紹介を行いました。

### ④ 参加者が主体の「参加型学習」

(例) ・テーマの修正「目指せ!…」 → 「目指そう!…」

・文言の修正「講座の前にルールとマナーを確認しましょう」 → 「『安心して話し合うために』を確認しましょう」

・「アドバイスタイム」 → 「おわりに」

\*参加型学習は、参加者の主体性を大切にしています。参加型学習を用いた親学プログラムには、子育てに関して主体的な対話をとおして、自分なりの気づきを得ながら参加者同士のつながりづくりになって欲しいという願いが込められています。講義のようにたくさんの知識を一方向的に伝える形とは異なります。このことから、上記にもあるように一方向的な押しつけと受け止められるような表現には留意しながら進めています。

